

ンでナリンゲニン7, 4'-ジアセテートをえた。

ついで α -アセトブROMグルコースを作用させ、えられた長針晶物質を25%アルカリで開環させることによりイソサリパポシッドの合成を試みた。

3. えられた黄色長針状化合物はイソサリパポシッドと性質がかなり異なるので、イソサリパポシッドの α 異性体であると思われる。

ナリンゲニン7, 4'-ジアセテートにキノリン溶媒中酸化銀を縮合剤として、 α -アセトブROMグルコースを縮合させれば、当然従来反応例からいうと β -型がえられるはずであるが、 α -型と推定される化合物がえられたことは特殊な例として興味深いと考えられる。

A-64 フラボノイド色素の研究

静岡女短大 ○江崎 幸子
山崎 雅代

1. 夏みかんの苦味成分ナリンギンを利用する一環としてフラボノイド色素の一種イソサリパポシッドの合成を試みた。

2. 夏みかんからナリンギンを抽出し、5%硫酸で加水分解してアグリコンを作り、無水酢酸と少滴のピリジ